



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 376
July
2024

トピックス

関係機関との協力推進

¶ JICA課題別研修：2024年度 中南米総合防災コース

¶ 準天頂衛星の防災利用の技術の海外展開に関する事業の紹介（UN-SPIDER RSO会議）

国際会議への参加

EPWGワークショップ：
APECにおける脆弱なコミュニティのための早期警戒早期行動の強化

ADRCインターンレポート

タトゥル・アタルヤン
（愛媛大学）

アジア最新災害情報

メンバー国で発生した災害

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
https://www.adrc.asia

© ADRC 2024

●関係機関との協力推進

JICA課題別研修：2024年度 中南米総合防災コース

アジア防災センター（ADRC）は、JICA関西と協力し、2024年5月20日から7月12日までJICA課題別研修「2024年度中南米総合防災コース」をオンラインと対面によるハイブリッド形式で実施しました。

本研修には、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、ペルーの中南米12ヶ国から14名の中央・地方政府防災担当者が参加しました。

参加者は、4週間のオンライン及び4週間の対面による講義、演習、視察に参加し、防災に関する日本の技術や経験を学びました。視察では、兵庫県や東京、岩手県の関連機関を訪問し、仁川地すべり資料館見学、兵庫県広域防災センター体験学習、北上川の洪水対策事業等の様々な対策を学びました。そして、地方防災計画策定のための8ステップ演習を通じ、自国・地域で実施するための地方防災計画案を策定しました。帰国後は、自国の防災対策を改善し、人命や経済の損失を削減していくために活躍することが期待されています。

当研修実施にあたり、御講義いただきました各関係機関・大学の皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



仁川地すべり資料館（集水井）見学

準天頂衛星の防災利用の技術の海外展開に関する事業の紹介（UN-SPIDER RSO会議）

2024年6月10日 国連防災緊急対応衛星情報プラットフォーム（UN-SPIDER）の地域支援事務所（RSO）会議がオンラインで開催されました。UN-SPIDERは、宇宙空間ベースの技術の防災や緊急対応の場面での利活用を促進するための多国間のプラットフォームであり、国連宇宙部

続き

(UNOOSA, United Nations Office for Outer Space Affairs) が支援しているプログラムです。UNOOSAは、国際連合において宇宙に関する政策を担当する機関です。本部はオーストリアのウィーンにあります。

また、RSOは、UN-SPIDERのプログラムを支援する地域単位のサポートオフィスのことです。2009年6月4日に国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）の第52回会議において、ADRCは、RSOの設立に関する協力合意文書にUNOOSAと共に署名し、以来RSOとして活動をしています。

6月10日のUN-SPIDERのRSOの会議では、内閣府宇宙戦略事務局がアジア大洋州地域の9カ国と連携して展開を検討している準天頂衛星の防災利用に関する事業の進捗状況について、ADRCのプロジェクト・ディレクターである鈴木弘二氏がプレゼンテーションを行いました。

この技術は、日本国が開発・運用しているGNSS（全球測位衛星システム）である準天頂衛星システム（日本名、みちびき）を利用して、防災関連情報を「みちびき」を介して伝達するものです。これは、通常の通信インフラが整備されていない地域や災害などの影響で通信インフラが途絶している状況下でも防災関連情報を提供することができる優れた技術であり、日本国内では2018年から一部運用が開始されています。この技術をアジア大洋州地域での社会実装を念頭にして、利用可能性についての調査やプロトタイプを受信機を現地に持ち込んでデモンストレーションを実施しているものです。

会議冒頭で、UN-SPIDERのプラットフォームで取り組まれてきた宇宙空間ベースの技術の防災利用の取り組みは、これまで光学衛星、SAR衛星関連のものであり、GNSS（QZSS、準天頂衛星）の技術の防災への活用の取り組みは極めてユニークであるという紹介がUN-SPIDERからありました。

●国際会議への参加

EPWGワークショップ：APECにおける脆弱なコミュニティのための早期警戒早期行動の強化

2024年6月24日～25日、ベトナムのダナンでEPWGワークショップ「APECにおける災害脆弱コミュニティのための早期警戒早期行動の強化」が開催されました。これは、APECの防災作業部会（EPWG）でベトナムのフォーカルポイントでもあるベトナム農業農村開発省堤防管理・防災局が主催したもので、APECのメンバーエコノミー間で自然災害リスク管理に関する専門的・技術的情報を共有することを目的としており、APEC域内の約30名の専門家が参加しました。

ADRCからは児玉美樹研究部長と塩見有美主任研究員が参加し、塩見主任研究員はセッション3「ベストプラクティスと教訓」の中で、「CBDRMと緊急事態管理のための最新技術の活用」と題したプレゼンテーションを行いました。本ワークショップを通じて、参加者は、脆弱なコミュニティに対する早期警戒と早期行動に関するさまざまな教訓や意見を積極的に共有しました。



EPWGワークショップ参加者

●ADRCインターンレポート

タトゥル・アタルヤン（愛媛大学）

私の名前はタトゥル・アタルヤンです。

アルメニア出身で、現在は愛媛大学博士課程に在籍しており、災害リスク管理を専攻しています。JICAのSDGs奨学生としてJICAの支援のもと、日本を代表する組織でインターンをする機会を得たことから、災害リスク管理に関する豊富な経験と専門知識があるADRCを選びました。

7月1日から7月19日までのインターン期間中、私は自然災害データブック2023の作成に貢献しました。私の役割は、2023年と過去30年間（1993年～2022年）の自然災害に関するデータ、特に発生数、死者数、被災者数、経済損失に焦点を当てて分析し、比較することでした。

さらに、同時期の気候関連災害の分析も行い、ADRC加盟国を中心に世界と地域のCOVID-19の状況についても評価を行いました。

この期間を通して、私は貴重な洞察を得、重要なスキルを身につけることができました。私は、日本の労働環境特有の規律、時間管理、チームワークを取り入れ、日本の労働文化への理解を深めました。また、複雑なデータセットから洞察力のある表やグラフを作成する能力を向上させ、詳細な情報を解釈して提示することで分析能力を強化することができました。

ADRCでインターンをさせていただき、新たな技術や経験を身につけることができるととても感謝しています。ここで学んだことは、災害リスク管理における私の継続的な研究と専門的能力の発展に大きく貢献することでしょう。



●アジア最新災害情報

メンバー国で発生した災害

7月に入り、ADRCメンバー国各国において、洪水等の災害が多発しています。

パキスタン、ミャンマー、インド、ネパール、ベトナム、中国での洪水や地すべりが報告されている他、センチネル・アジアでは、ミャンマー、ベトナム、ネパール、インド、フィリピン、タジキスタン、ウズベキスタン、キルギス共和国において、緊急観測が行われています（2024年7月23日現在）。

詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

- ADRCホームページ : https://www.adrc.asia/top_j.php
- センチネル・アジア : <https://sentinel-asia.org/>

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。